

年 組 名前 :

問1

「^{にしやま}西山ダム^{はつでんしょ}発電所」は、^{いっぽんかていなんけんぶん}一般家庭何軒分の

^{でんりょく}電力を^{まかな}賄いますか。

問2

^{みず}水の^{さいだいらくさ}最大落差は何メートルありますか。

問3

^{すいりょくはつでんしょ}水力発電所は、^{すいりょく}水力を^{りよう}利用し^{はつでん}発電してい

ますが、^{すいりょくいがい}水力以外で^{はつでん}発電に^{りよう}利用している

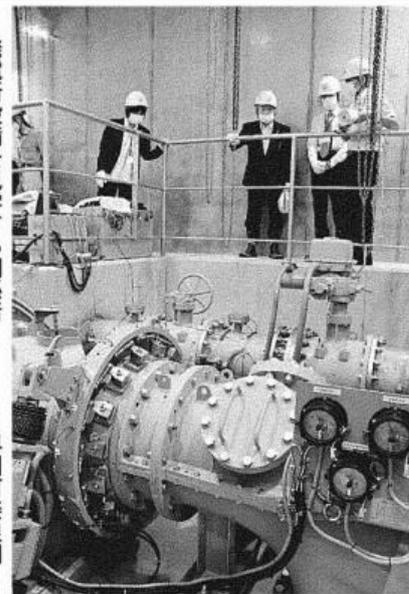
エネルギーには^{なに}何がありますか。

西山ダム 発電開始

早川町 CO₂年230ト削減

県企業局が早川町奈良田で整備を進めていた小水力発電施設「西山ダム発電所」が完成し、5日に運用を始めた。一般家庭約90軒分の電力を賄い、年間約230トの二酸化炭素(CO₂)の削減につながるという。

県企業局電気課によると、西山ダムから早川に水を放流する施設に水力発電機を取り付けた。西山ダムの取水口から水を取り込み、最大落差約13メートルを流れ落ちる水の勢いでプロペラを回転させて発電するという。最大出力は49キロワットで、年間発電量は33万キロワット時。全量を東京電力パワーグリッドに売却し、企業局の年間収入は約1億1000万円を見込む。この日は起動式が行われ、



発電所設備を見学する関係者

早川町奈良田

井出仁公営企業管理者が「自然の力を利用した事業を推進したい」とあいさつ。早川町の辻一幸町長が「早川水系では多くの水力発電所が稼働している。豊かな水資源を活用していきたい」と述べた。県は、2013年度からの

10年間で10カ所程度で小水力発電所の整備を目指している。西山ダム発電所は5カ所目となる。〈小林諒一〉

(2020年08月06日付 山梨日日新聞 23面)